

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890600089		
法人名	医療法人社団 渾深会		
事業所名	グループホーム 更紗		
所在地	神戸市長田区野田町9丁目4-13		
自己評価作成日	平成25年8月20日	評価結果市町村受理日	平成26年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/28/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市松風町2-5-107		
訪問調査日	平成25年8月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人社団が母体の施設で、医師である理事長に、24時間いつでも連絡をとることができます。看護師、栄養士が勤務しています。朝、昼、夕食の三食とも、材料からグループホームで調理しています。入居の方の居室、共有スペースはゆとりをもって広めに設計されています。お一人お一人のご要望を聞きながら、個別に、健康管理、介護、レクリエーション、外出などを行っています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近代的な佇まいの落ち着いた家庭的な雰囲気が感じられる施設である。職員は法人理念を基に地域密着型サービスとしての役割を踏まえ、あんしんすこやかセンター職員・地域の介護サービス事業所職員等が参加される小地域ネットワーク連絡会に参加し、地域への理解を深め連携を図る取り組みに活かしている。また、連絡会で得られた情報から地区防災福祉コミュニティーに利用者と参加することで地域の方の理解と協力関係を構築する機会ともなっている。認知症の進行やADL低下により、自ら思いや意向を訴えることができない状況のご利用者も多くなっているが、職員は日々のケアの場面で利用者一人ひとりの思いや意向を聞きながら、外に出て気分転換ができるように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に親しみ、地域の中で幸せを実感できるような働きかけをお一人お一人にあわせたかたちで提供しています。	地域密着型サービスとしての役割を盛り込んだ運営理念を掲示すると共に、フロアーに職員がいつでも手にして見ることができるよう理念を明示したマニュアルを設置して理念の共有を図っている。ケアカンファレンスやフロアーでの短時間の話し合いの場で利用者一人ひとり個別性を大切に支援を行うために、理念に立ち戻り検討を行い理念の浸透に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に一度、地域の給食会に参加していただいています。近所に、喫茶店や理髪店、美容院、洋装店の行きつけのお店も出来ました。	あんしんすこやかセンター職員・地域の介護サービス事業所職員・民生委員・市の職員・地域の医療関係者の方が出席する、小地域ネットワーク連絡会に事業所から参加し、地域と進める認知症早期発見構築システムの情報提供やあんしんすこやかセンターの活動状況・支援状況の情報等の提供を受け、地域への理解を深め連携を図る取り組みに活かしている。また、連絡会で得られた情報から地区防災福祉コミュニティに利用者と共に参加し地域との交流に取り組み始めている。利用者に参加することで地域の方の理解と協力関係を構築する機会ともなっている。地域の商店の方とのコミュニケーションが取れるようになり、普段の何気ない会話から事業所への理解を深めてもらい、地域住民の一員として暮らしつづけることができるよう事業所から積極的に働きかけている。近隣の喫茶店・理髪店・美容院などには利用者と共に出かけている。事業所で「更紗祭り」の実施も地域住民の参加を呼びかけ相互の交流を行うようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所で開催する行事に地域の人々を招いて交流を持てるようにしています。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、利用者様、ご家族様、地域の民生委員の方、有識者の方、あんしんすこやかセンターの代表の方のご意見、ご質問内容を検討し、運営に反映させていただいています。	地域民生委員、あんしんすこやかセンター職員、医療福祉連絡支援協会理事長、利用者・家族の方の出席で年6回、偶数月に開催している。会議では、事業所の活動状況や利用者の状況を理解してもらえるように写真等を利用して報告を行っている。会議の参加メンバーの方からの意見交換や質疑応答を通してサービスや運営、地域交流に役立てるよう取り組んでいる。参加メンバーからの何をしている事業所かわからないとの意見をもとに「更紗祭り」の開催につなげ、地域へ理解してもらえる事業所の取り組みに意見を反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	長田区グループホーム専門部会、長田区ケアマネージャー連絡会などで、情報交換し、ケアサービスの向上に努めています。	昨年事業所へ調査ために神戸市役所介護指導課職員の来訪があり、助言や指導を受け運営に反映させている。市の担当窓口職員の出席がある長田区グループホーム専門部会、長田区ケアマネージャー連絡会などに積極的に参加し、情報交換や情報提供を受け運営やサービスに反映させるようにしている。普段から市の担当窓口には問題や課題があれば問い合わせを行い指導・助言を受ける他、保健所とも連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を実施し、職員全員が研修報告書を提出しています。	今年度から新入職者研修に「身体拘束をしないケアについて」虐待を含めて研修で周知するように取り組んでいる。神戸市の実施する「神戸市高齢者虐待防止講演会」に参加した職員が講師となり事業所内で全職員へ身体拘束をしないケアの実践について理解を深め実践に活かすようにしている。ケアカンファレンスや日々の話し合いの機会に職員が日々行っているケアの疑問や気づきなどが出され拘束につながるケアや事例がないか話し合い・検討を常に行い利用者が安心して過ごせるように取り組んでいる。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を実施し、何が虐待にあたるかを明確にし、細かいところまで配慮した対応を心がけ、実行するようになっています。	職員は業務優先でなく、利用者に意向を確認しながらケア・支援を行うように努めている。虐待の種類や範囲などが正しく理解できるように研修の機会を持っている。研修実施後には参加した職員一人ひとりが研修報告書を提出し、職員一人ひとりの習熟度が確認できる。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中に、成年後見制度を利用されている方が3名おられます。後見人様2名、保佐人様1名おられますが、随時、連絡を取り、利用者様の権利をお護りしています。	現在制度を利用されている方がいる。後見人の方とは随時連絡を取り利用者が安心して生活を継続できるように連携を図っている。職員への周知の為の研修の実施には至っていないが、制度を利用されていることは理解している。	高齢者の尊厳を守るためにも利用者が制度の利用の必要性がある場合には制度利用が円滑にできるように職員への周知を図る取り組みが望ましい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご見学、面接、契約を通して、ご本人やご家族様のご要望や質問に答えています。契約時には、十分に時間をかけて説明させて頂いた上で、ご署名、ご捺印していただいています。	利用の意向があれば自宅に管理者・職員が面談に出向くが、契約は事業所に利用者・家族に来院してもらい時間をかけて契約書・重要事項説明書の項目に沿って説明を行っている。契約時には特に契約解除、医療機関への受診支援については具体的に説明を行い理解と協力を得るようにしている。重要事項説明書の共益費の詳細を明示するように変更した際には、運営推進会議で説明を行う他、全家族に説明を行い、変更部分の差し替えを行っている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を開催し、ご家族様との質疑応答、ご要望を伺う機会を作っており、多数のご意見を頂いています。玄関には、議事録を開示し、また、ご意見箱を設置し、苦情も受け付けています。必ず回答いたします。	運営推進会議に出席された時に家族より意見や要望等を聴取する時間を持っている。玄関には意見や要望を出してもらえるように意見箱の設置もしている。家族が面会の為に来訪された際には、職員へ直接意見や要望等を申し出られることもあり、出された意見や要望等は管理者に報告されると共に全職員で情報を共有し速やかに反映させるように取り組んでいる。利用料金の支払い方法について家族より意見がだされ、変更について家族に説明を行い反映状況を報告している。家族来訪時には、普段の様子を話す他、利用者の状況に変化がある時には、家族に電話で報告するようにしている。家族来訪時や利用者の体調の変化が生じた時には、日々の状態や変化を把握してもらうために介護記録の開示を行っている。	利用者の普段の生活状況、事業所での活動状況などを定期的にお便り等で報告し家族に把握してもらい、利用者・家族の意見や要望をより多く引き出し取り組みに活かしていくことが望ましい。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で話し合ったり、日頃からも多くの意見が出ています。記名でも匿名でも、意見を出せるように、管理者宛の意見箱を設置しています。提案を反映させたり、問題解決できるよう努めています。	月1回職員会議を開催している。会議開催前には、職員からの意見や提案を聴取し、出された意見や提案を会議で検討している。普段から管理者は意見を聴取できるように意見箱を設置しており、意見や提案が口頭で申し出るだけでなく書面でも出してもらえるようにしている。出された意見は速やかに解決・反映できるように話し合いや検討を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格を取得した職員には、その給与に反映させています。人員にゆとりのある配置心がけています。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部で実施される研修、認知症介護実践研修、介護職員によるたんの吸引等の実施のための研修などを順番に受講できるよう努めています。また、施設内でも、伝達研修等を行うようにしています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>長田区グループホーム専門部会やケアマネージャー連絡会に定期的に参加しています。各施設を会場として行き来したり、また、他施設の行事に利用者様をお連れしたりしています。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>面接時から、利用様の訴えや表情、ご家族様のお話、関わってこられた関係職種の方々の情報をサービスに反映させるようにしています。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>相談に来られた時から、ご家族様のお話を伺い、ご家族様の介護の負担が減り、共に満足していただけるように努力しています。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人が本当に、当施設に入居されて幸せかどうかを見極めるようにしています。場合によっては、他の目的の施設をご案内させていただくこともあります。</p>		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である利用者様のお話を伺ったり、教えていただくこともたくさんあり、一緒に楽しんだり有意義な時間をすごさせていただいています。利用者様が職員に助言してくださり、救われることも多々あります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も、熱心に面会に来られ、利用者様と深く関わられる方が多く、利用者様にとって、良い環境を作って下さっています。普段から、お散歩に連れて行ってくださったり、行事の時にも、お力を貸していただきとても有難く思っています。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も、馴染みの人と連絡を取り外出されたり、施設に来て頂きやすい雰囲気になるように努めています。ご入居前からの病院へ通われたり、同じ先生の往診を受けていただけます。	利用開始前の住み慣れた地域の馴染みの人の面会が現在も継続されている方があり、来訪された時には、気持ち良く面会ができるように雰囲気作りに配慮している。利用開始後に出来た、同建物内の小規模多機能事業所の利用者や階の違う他の利用者との馴染みの関係も継続できるように利用者の意向で、建物内を自由に移動し交流が継続できるように支援している。地域には馴染みの店へ買い物や散歩に出かけ関係継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士で、良好な関係を保ち、ストレス少なく暮らしていただけるようケアプランにあげ、対応させていただいています。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開設後、看取りをさせていただいた方、入院された方など、4名の方が退去されました。その後も連絡を下さったり、お知り合いの方を紹介していただいたりしています。退居された後も、いつでも来所していただけるような対応をしたいと思っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方にとっての思いに応えられる対応を常に心がけています。困難な場合も、協力機関、協力者を探し思いが実現出来るように支援させていただいています。	普段の日常の会話の中で利用者一人ひとりの言葉や表情から思いや意向を把握するように努めている。自ら希望や意向を言葉で表現することが難しくなってきた利用者への何気ない言葉や表情、動きから考え把握・支援に活かすようにしている。特に言葉で意志を表せない利用者には、表情に注意を払い、些細な変化を見逃さないように配慮し利用者の言葉以外の思いや意向を把握するように努めている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居面接時に、ご家族様から生活歴を伺ったり、これまで利用されていたサービスの担当者からの情報をいただいています。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方に応じた生活リズムを考え、心穏やかに健康で有意義な時間をすごしていただけるよう工夫しています。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>サービス担当者会議を定期的および定期以外にも必要時に開催しています。ご本人、ご家族様、関わる職員の意見をケアプランに反映させ作成しています。</p>	<p>利用開始前に利用者宅に出向いて面談する際に利用者の状態や生活状況を把握する他、利用者・家族に意向や希望を聴取確認している。ケース記録として面談から利用開始までの相談や状況も残している。把握できた情報を整理しアセスメントを行いケースカンファレンスで職員の気づきや意見を取り入れ「施設サービス計画書」を作成している。施設サービス計画書の短期目標・サービス内容に沿って3カ月に1回モニタリングを実施しケアカンファレンスを開催し計画の変更について検討している。計画の変更時には再アセスメントを実施し、利用者の現在の状況に即した介護計画の見直しを行っている。施設サービス計画書は全職員が計画を意識して支援できるように各階に計画書ファイルに最新の計画を入れていつでも確認できるようにしている。計画に沿って支援したことがケース記録に利用者の生活状況・観察と共に記載されている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々のご様子、ケアプランの実践などを個人別のケア記録に記入するとともに、申し送りをし、共有しています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>当施設では対応出来ないニーズには、外部の介護保険外のサービスを組み合わせたり、必要に応じて、その都度検討しています。</p>		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	参加可能な利用者様に、月1回の給食会に参加していただいています。また、地域で行われる餅つき大会やだんじりや神戸マラソンの見物などにもお連れしています。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に引き続き受診していただけるよう支援しています。医療法人社団が母体の施設なので、希望の方には、月2回～、医師である理事長の往診を受けていただけます。	利用者・家族の希望を聞き利用開始前からのかかりつけ医への受診ができるように支援する他、希望があれば医師である理事長の往診を受け、健康管理・疾患管理を行っている。看護師職員の配置があり普段の健康管理や利用者の状態変化時にはいつでも相談できる体制が整えられている。急な身体状況の変化時にはいつでも母体の医療法人の医療機関へ相談・受診できる体制も整えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護師を配置し、健康管理、処置などを施行しています。何かあれば、いつでも、医師である理事長に連絡できることになっています。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、ご家族様や病院のソーシャルワーカーと情報を交換し、退院に向けて協力していただいています。	入院時には、利用者の普段の状況等を医療機関に情報提供し、適切な医療・看護が速やかに受けられることができるように支援している。入院中は医療機関と連携を図り、利用者の状態把握に努めている。利用者の退院の目的が立てば医療機関より情報提供・指導・助言を受けスムーズに元の生活に戻ることができるように努めている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎えられた利用者様には、医師を交えた話し合いの場を持ち、「看取り介護についての了解覚書」、「看取り介護についての同意書」を交わしています。その後、ご家族様とは、密接に連絡を取るようになっています。	重度化・看取りの指針について明文化しており、重度化・看取りの段階担った時に指針の詳細を説明し家族の意向・希望を聞き支援している。看取りを実施する際には、「看取り介護についての了解覚書」、「看取り介護についての同意書」を交わしている。統一した方針で支援するために施設サービス計画書に支援の詳細を明示し家族に同意を得て家族の協力を得ながらチームで支援するようにしている。	重度化・看取りに関しての研修会を実施し全職員で統一した方針で重度化・看取りの支援を行っていくことが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、救急車の手配、医療機関への伝達事項、緊急時連絡網を表示し、全職員に周知されています。	/	
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、火災受信設備業者立ち会いで、年に2回、消防避難訓練を実施しています。毎年、昼間設定、夜間設定の訓練を行っています。消防設備の使い方の練習を職員で実践しています。	消防避難訓練を年2回実施している。運営推進会議から地域へ理解をしてもらえるよう取り組んでおり、地域で開催された防災訓練にも利用者の状況に合わせて参加し、非常災害時に備えている。	今後、事業所で考えられる様々な非常災害を想定し避難誘導訓練の実施を行っていくことが望ましい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様お一人お一人に尊厳のある対応を心がけています。申し送り時には、個人の状態などが、他利用者様の耳に入らないように部屋番号で発言するなど配慮しています。	申し送り時の声の大きさや申し送り方法など日頃から注意を促し、利用者個々の尊厳・プライバシーを考え支援に取り組んでいくようにしている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を表したり、自己決定出来るような言葉かけをしています。何事もご本人の意向を伺ったうえで対応させていただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしが出来るように個別対応をしています。時間や業務にとらわれることなく思いを受け入れるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性の利用者様にも、女性の利用者様にも、好みの服装で、常に身ぎれいにさせていただけるよう支援しています。理美容院にお連れしたり、衣料品、化粧品の買い物に同行させていただいています。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	三食とも、施設のキッチンで職員が調理し、利用者様にも、手伝っていただいたり、料理の雰囲気を感じていただければと思います。利用者様と職員は、同じテーブルと一緒に食事を楽しんでいます。	調理担当職員と栄養士が中心となり栄養士が立てた献立に沿って事業所のキッチンで調理を行っている。利用者の希望や状況によって調理へ参加できる場面作りも行っている。胃ろうを利用の方もいる。昨年の敬老会にはお寿司を食べに外出の機会を持ったが、今年はADLの低下で嚥下や咀嚼に問題がある方が多く、事業所で松花堂弁当を注文し食べる楽しみを持つ予定である。咀嚼に問題があれば刻みやミキサーで対応している。水分摂取も制限が必要な方では、無理のないように小まめに水分摂取が少量ずつ摂取できるように支援したり、動きや発汗に応じて水分量の細かな調整を行っている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による栄養管理を実施しています。水分摂取、食事摂取を拒否される方には根気よく介助し、それでも進まない方には、補水ゼリーや補助食品も加えて食事の工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、就寝前には、その方に応じた方法で口腔ケアを行い、義歯の管理もしています。必要な方には、歯科往診時に職員も、利用者様のための口腔ケアの指導を受けています。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄パターンや希望により、1日に何度でもトイレにお連れしています。	利用者の排泄状況・パターンを把握し、利用者がトイレで排泄できるように支援している。現在時間毎に誘導・声かけが必要な方が多くなってきている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分摂取、運動など生活リズムを整えるとともに、ひどい便秘の方には、繊維質の補助食品や、服薬、座薬などを用いることもあります。段階を経て排便コントロールをさせていただいています。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴が好きな方には、週2回以外にも入浴していただいています。夕方以降の入浴をご希望の方には、その時刻に対応させていただきます。お一人ずつお湯を入れ替えてお好みのシャンプーなどを使用いただいています。	希望に応じて入浴ができるように支援している。入浴を嫌がる方でも週に2回入浴してもらえるように声かけや誘導を工夫している。ADLが低下しても入浴を楽しめるようにストレッチャー等を工夫して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調よくすごしていただけるように、夜間熟睡できる生活リズムを作るよう支援しています。日中は、その方にとって適切な時間を考えて睡眠をとっていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の体調を把握し、医師の処方により、服薬していただいています。服薬により、症状がどう変化したかを確認し、報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味を生かした役割を披露していただけるよう努めています。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	興味のある場所へ外出支援をしています。ご家族様にも同行していただき、馴染みの食堂で気軽に外食されています。また、遠出すると心身に負担のかかる方は、近所へお散歩にお誘いしています。	少人数で車でドライブにでかけたり、近隣へ外食に出かけている。ADLの低下によりが外出が難しくなってもベランダなどで外気に触れる機会を持つように努めている。各階職員が協力をし、より多く散歩ができるように工夫し、気分転換やストレス発散を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に、ご自分でお財布を持って出かけ、衣類やおやつなどの買い物をされたり、ご自分の財産のわかる帳簿を確認している方もおられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい時はいつでもかけていただいています。お部屋で、好きな時間に携帯電話で話しておられる方もいます。ご家族様やご友人も協力して電話で話して下さいます。絵手紙を出される方もおられます。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは常に清潔を保つように気をつけています。利用者様と職員とで飾り付けなどを楽しんでいます。分かりやすい表示を工夫しています。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様どうして、良好な関係を保つことが出来るように、場所は固定しないものの、席の位置を配慮させていただいています。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やお好みの道具を使っ ていただいています。お仏壇や絵画、食器棚 など自由に持参していただけます。		
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台やトイレの位置や、使い方がわかり にくい方にも、迷わずに使用していただける ように工夫しています。出来るだけ、お一人 で行動されるのを見守りしながら、危険な時 はさりげなく介助させていただいています。		